

## 第 10 回キンボールスポーツワールドカップ 2019 大会レポート



- 派遣期間：2019年10月26日(土)～11月4日(月祝)
- 大会期間：2019年10月27日(日)～11月2日(土)
- 開催場所：フランス・レポンドセ (Les Ponts-de-Cé)
- 部門：女子部門、男子部門
- 参加国：女子11カ国、男子11カ国(下記参照)
- 最終順位：



**WORLD CUP 2019**  
**OFFICIAL RANKING**



### ●女子部門

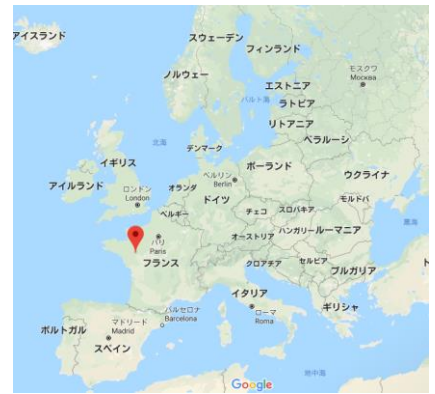
- 優勝：カナダ
- 準優勝：チェコ
- 第3位：日本
- 第4位：ベルギー
- 第5位：フランス
- 第6位：スペイン
- 第7位：スイス
- 第8位：中国
- 第9位：韓国
- 第10位：香港
- 第11位：ドイツ

WOMEN		MEN	
1 <sup>ST</sup>	CANADA	1 <sup>ST</sup>	CANADA
2 <sup>ND</sup>	CZECHIA	2 <sup>ND</sup>	FRANCE
3 <sup>RD</sup>	JAPAN	3 <sup>RD</sup>	JAPAN
4 <sup>TH</sup>	BELGIUM	4 <sup>TH</sup>	CZECHIA
5 <sup>TH</sup>	FRANCE	5 <sup>TH</sup>	BELGIUM
6 <sup>TH</sup>	SPAIN	6 <sup>TH</sup>	SPAIN
7 <sup>TH</sup>	SWITZERLAND	7 <sup>TH</sup>	SOUTH-KOREA
8 <sup>TH</sup>	CHINA	8 <sup>TH</sup>	SWITZERLAND
9 <sup>TH</sup>	SOUTH-KOREA	9 <sup>TH</sup>	CHINA
10 <sup>TH</sup>	HONG-KONG	10 <sup>TH</sup>	HONG-KONG
11 <sup>TH</sup>	GERMANY	11 <sup>TH</sup>	GERMANY

### ●男子部門

- 優勝：カナダ
- 準優勝：フランス
- 第3位：日本
- 第4位：チェコ
- 第5位：ベルギー
- 第6位：スペイン
- 第7位：韓国
- 第8位：スイス
- 第9位：中国
- 第10位：香港
- 第11位：ドイツ

第10回大会にあたる今大会、日本は今泉良正団長（一般社団法人日本キンボールスポーツ連盟理事長）、黒川道子副団長・ゼネラルマネジャー（一般社団法人日本キンボールスポーツ連盟副理事長、日本代表委員会委員長）をはじめ、柴井健太男子ヘッドコーチ、酒井英登女子ヘッドコーチ、パフォーマンスコーチ、トレーナー2名、男子選手12名、女子選手12名、ほかスタッフ28名（インターナショナルオープン参加兼任者含む）、合わせて総勢58名の選手団で参加いたしました。



今大会は、男子、女子ともに11ヶ国（前述）の参加がありました。男子部門に参加予定であったオーストリアが直前に欠場となったことは残念でした。

今回、日本は2018年11月に代表候補選手を選出し、代表候補選手の追加も行い、概ね月1回のペースで合宿&強化練習を行いました。そして2019年4月の時点において男女12名ずつの代表選手を選出し、以降合宿&強化練習を概ね月1~2回のペースで行い、今大会に備えました。

今大会は10月27日（日）にレセプションとウエルカムパーティーが大会会場である体育館（Athletis complex）で開催されました。今回は体育館の活用度が高く、11月2日（土）のフェアウエルパーティーも体育館での開催でした。大会を多くの人に楽しんでもらうべく、子ども向けの無料のアトラクションも主催者が用意しており連日にぎわっていました。体育館の外にはハンバーガー、スパゲティなどのキッチンカーが最大で4台集まり、こちらも人気を博していました。



ほぼ毎日、小雨模様でした



街中にあるバス停横の看板



体育館外観



レセプション



子どもが遊べるアトラクション多数



日本びいきのキッチンカーの店主と日本チーム





オープニングセレモニー入場シーン



アリーナ全体

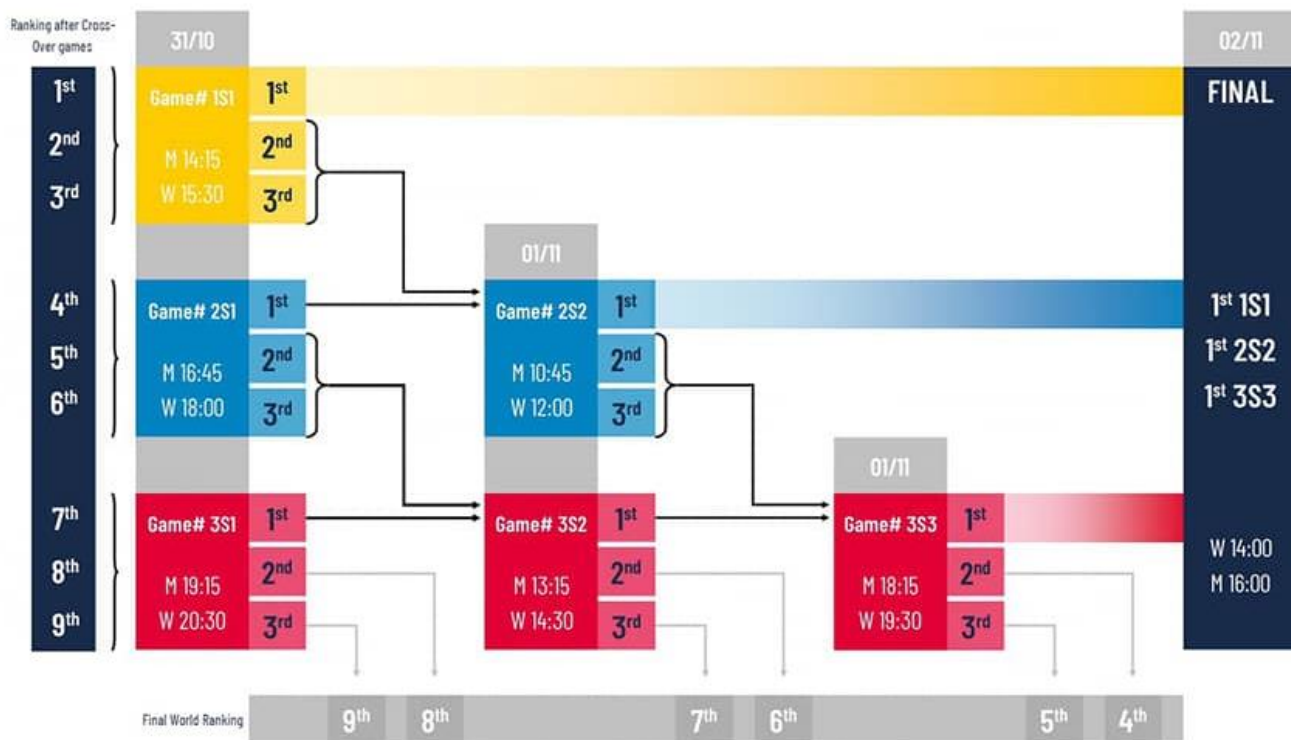
ワールドカップの試合は 1 ピリオド 13 点先取制の 3 ピリオド先取方式で行われました。今大会の競技方式は、前回の 2017 年の東京大会から変更となり、大きく 3 つのラウンドと決勝に分かれています。予選ラウンド、第 2 ラウンド（クロスオーバーゲーム）、準決勝ラウンドです。

予選ラウンドは大会前の世界ランキングの上位 7 チームをプール A とし、その他（今回は下位 4 チーム）をプール B として分け、まずは、それぞれのプール内で予選 3 試合を行います。日本は男女とも、ランキング 2 位でしたので、プール A の 7 チームの中で戦いました。

予選ラウンド終了後、「クロスオーバーゲーム」と言う第 2 ラウンドが行われました。プール A の 1 位～5 位までは自動的に準決勝ラウンド進出です。プール A の予選 6、7 位とプール B の 1 位とプール B の予選順位 2 位から 4 位までの試合となります。この結果を踏まえて準決勝ラウンドに挑みます。

準決勝ラウンド（下図参照）はクロスオーバーゲーム後の順位の上から 3 チームずつ戦います。これは 1～3 位で戦うブロック、4～6 位で戦うブロック、7 位～9 位で戦うブロックにわけ、1～3 位で戦うブロックでは勝てば決勝進出、負ければ負けた 2 チームと 4～6 位で戦うブロックで勝ったチームで対戦し、勝てば決勝進出、負ければ負けた 2 チームとその時点で勝ち残っていたチームで決勝進出を争うという、最終的に勝ち残った 3 チームで決勝を行う方式です。

この競技方式のメリットは、予選から力に差のないチームとの試合となるため、接戦になる可能性が多く好ゲームが期待できること、多くの敗者復活戦があり最終的に強い 3 チームが決勝に進むこととして、国際キンボールスポーツ連盟内での協議を経て採用されました。デメリットとしては、わかりづらいこと、試合数の増加により予選ラウンドは 2 コート同時開催となったこと、同様に時間の関係で予選ラウンドは国家斉唱がなかったことでした。



準決勝ラウンド対戦表

今大会のワールドカップレフリーはフランスから2名、ベルギーから2名、カナダから1名、韓国から1名、そして日本から3名（古賀充レフリー、又村恵レフリー、山崎北斗レフリー）の計9名で担当しました。準決勝日に古賀レフリーはインターナショナルオープンのプロの部決勝のヘッドレフリーを、山崎レフリーはアマの部の決勝のヘッドレフリーをそれぞれ担当しました。

第2ラウンド終了時点で、男子は、カナダが予選3戦全勝の1位。続いて、予選で日本を倒したベルギーが予選2位、日本は予選1勝、2位2試合で予選3位の結果となりました。以下4位フランス、5位チェコ、6位韓国、7位スペイン、8位スイス、9位中国。9位までが準決勝ラウンドに進むことができます。10位香港、11位ドイツ。

女子は、カナダが予選3戦全勝の1位。日本は予選3戦2勝、2位1試合で予選2位の結果となりました。以下3位フランス、4位チェコ、5位ベルギー、6位スイス、7位中国、8位韓国、9位スペインまでが準決勝ラウンドに進むことができます。10位香港、11位ドイツ。

準決勝ラウンド、10月31日（木）に男子はカナダ・ベルギーと対戦。カナダ3/ベルギー1/日本0の結果、カナダが決勝進出一番乗り。翌11月1日（金）、ベルギー・フランスと対戦。最終ピリオドまでもつれた試合はフランス3/ベルギー2/日本2の結果、フランスが決勝へ名乗りを上げました。決勝進出に後のない日本は、同日夜にベルギー・チェコとの戦い。日本3/チェコ0/ベルギー0のストレートで下し、決勝最後の一枠に滑り込みました。

女子準決勝ラウンド、10月31日（木）にカナダ・フランスと対戦。結果、カナダ3/日本0/フランス0のストレートでカナダが決勝進出一番乗り。翌11月1日（金）、フランス・チェコと対戦。日本3/チェコ1/フランス0の結果で日本女子決勝へ。その後、同日夜にフランス・チェコ・ベルギーの戦いにてチェコ3/ベルギー2/フランス1という結果でチェコが接戦を制し、チェコ的女子が初めて決勝進出を果たしました。

決勝は女子より。カナダ・チェコとの戦いです。結果、カナダ3/チェコ1/日本0。カナダの金メダル、チェコの銀メダル、日本の銅メダル。カナダ女子は10連覇達成。

決勝・男子。カナダ・フランスとの戦い。結果、カナダ3/フランス1/日本0。カナダの金メダル、フランスの銀メダル、日本の銅メダル。カナダ男子は2大会連続9回目の優勝。

決勝戦終了後、表彰・閉会式が行われ、ワールドカップMVPに男女1名ずつの選手が選ばれました。

また、ワールドカップと同時開催となった別大会インターナショナルオープン。プロの部とアマの部の2部門の開催となりました。プロの部18チームとアマの部10チームの参加がありました。プロの部には日本より3チーム、日本・フランスの合同で1チームの参加があり、その中の1つ、Budo A（国際武道大学A）がプロの部の優勝の栄冠を勝ち取りました。また、プロの部のMVPにBudo A（国際武道大学A）の石塚洗希選手が選ばれました。次の写真がMVP選手と国際キンボールスポーツ連盟のPierre-Julien Hamel代表との記念写真です。



Adelà Paurova（チェコ）



Gwendal Le Corre（フランス）



石塚洗希（日本）

今大会の良さをいくつか紹介します。

・地域をあげての協力体制

平日の予選から多くの観客が集りました。幼児からシニアまで老若男女、キンボールスポーツの愛好者でない地域の方が圧倒的に多かったと思います。体育館の近所のスーパーにもポスターが貼ってあり、広報活動のきめ細かさも感じました。スタッフもキンボールスポーツの愛好者でない地域の方の協力が大変多くありました。ボランティア募集、説明会などが早期に開催されスタッフとして参加していることを楽しんでいる様子が印象的でした。



・演出、動画制作・配信

大会の演出にも力を入れていました。ライトの暗転や火を使った演出など。また、動画制作・配信では特に予選以降の配信は3台以上のカメラを使い、選手のアップなど臨場感あふれる大満足の制作・配信でした。

・テーマ「エコ」

「エコ」をテーマに掲げ、ペットボトルを使わず、ドリンクカップの再利用を促していることなどキンボールスポーツの大会だけではない社会への広がりを感じることができました。

2019年度に改正があり、次回ワールドカップは2022年開催となります。今後は3年に1度のサイクルで開催されます。次回開催国は現在調整中です。決定次第、日本キンボールスポーツ連盟ホームページ、フェイスブックで発表させていただきます。



日本男子戦



日本女子戦



日本男子 決勝進出決定直後



表彰・閉会式

【記録】

- ・日本キンボールスポーツ連盟ホームページ 新着情報⇒連盟情報⇒2019.10.27～11.02 \_\_ 大会 \_\_ 第10回キンボールスポーツワールドカップ2019大会情報まとめ の項目で確認いただけます。  
<http://www.newsports-21.com/2015web/2019-10-27%ef%bd%9e11-02-%e5%a4%a7%e4%bc%9a-%e7%ac%ac10%e5%9b%9e%e3%82%ad%e3%83%b3%e3%83%9c%e3%83%bc%e3%83%ab%e3%82%b9%e3%83%9d%e3%83%bc%e3%83%84%e3%83%af%e3%83%bc%e3%83%ab%e3%83%89%e3%82%ab/>
- ・ダイジェスト動画はこちらよりどうぞ。YouTube内「KIN-BALL sport World Cup 2019」で検索。  
<https://www.youtube.com/watch?reload=9&v=k1ROpLjysLY&fbclid=IwAR0f0eXIcUdXJBoP-dzzFSmrTxnLwvLc2AmmsFfU3rhCcQW77BbeiIFGaf4>
- ・大会公式ホームページはこちらより。英語、フランス語です。試合もビデオ欄より動画再生できます。  
<https://kin-ball2019.com/en/>
- ・大会公式フェイスブックページです。  
<https://www.facebook.com/kinball2019/>
- ・ワールドカップカメラマンによる大会記録写真です。大会時期にさかのぼる必要があります。JPRさん  
<https://www.facebook.com/jprphotographie/>

M Caron Photographe さん

[https://www.facebook.com/M-Caron-Photographe-539135466179273/?epa=SEARCH\\_BOX](https://www.facebook.com/M-Caron-Photographe-539135466179273/?epa=SEARCH_BOX)

## 第10回キンボールスポーツワールドカップ2019 フランス大会レポート

第10回キンボールスポーツワールドカップ2019 日本女子チームヘッドコーチ 酒井 英登

日本女子チームは、前回大会が東京開催だったこともあり、海外でのワールドカップ出場経験者が選手12名中3名しかおらず、しかも半数の6名が初めての代表選手で、経験不足から諸外国や大会の雰囲気にもまれ、慣れない環境の中で本来持っている実力を発揮できないのではというメンタル面での懸念がありました。緊張のあまり、頭が真っ白になってどうしていいのかわからなくなったということはよくあることです。毎月行う合宿時においては、選手12名の心を1つにして戦うこと、どういう状況であっても平常心で戦うことができるようミスをして気持ちの切り替えを早くすることを念頭に置いて、体のウォーミングアップやクールダウンに並行して、全選手で行うルーティントレーニングを増やしたり、心の方のウォーミングアップやクールダウンに力を入れ、大会に臨みました。

10月28日から大会が開幕しましたが、事前抽選により予選の日程が発表されており、予選は3試合行われます。日本女子チームは、第1試合目は、10月28日に中国、韓国との対戦、10月29日は、2試合戦い、第2試合目は、フランス、チェコ、第3試合目は、カナダ、ベルギーとの対戦となっています。

予選第1試合目、日本女子チームは、中国、韓国との対戦でしたが、昨年のアジアカップでも対戦しており、勝って勢いづけたいところです。初代表組を積極的に起用し、心を1つに戦うことを実感できるよう全選手を出場させて、順当にストレート勝ちしました。

予選第2試合目は、地元フランス、チェコとの対戦となりました。フランスチームの登場で観客席もホームチームの応援に力が入ってきました。前回3位のフランスは、体格差がありパワーで押してくる印象で、前回5位のチェコは、レシーブ力には定評がある侮れない相手です。続けて2ピリオドを取ることができたものの、3ピリオド目はフランスのパワーが勝り1ピリオドを取られました。しかしながら次のピリオドでは、立て直して勝利することができました。

予選最終第3試合目は、9連覇中の王者カナダ、前回4位のベルギーとの対戦です。予選での好カードとなりました。日本女子チームは、これまで2勝しているので予選では1~3位に入る可能性が高くなり、今回からの競技方式の変更によって、カナダとはこの予選ラウンド、次の準決勝ラウンド、決勝と3回戦うことになる想定されます。この対戦方式が頭を悩ませることになるのですが、打倒カナダを目指してトレーニングしてきたので、3回の対戦の中で、この予選ラウンドと準決勝ラウンドを使って、全選手を出場させ苦手意識なく平常心で心を1つにして決勝を迎えることができるように心がけました。カナダは、多少小ぶりになった印象、ベルギーは、パワーで押してくるチームです。

1ピリオド目は、カナダ優勢に進みましたが、日本女子チームは、終盤に粘りを見せ、1ピリオド目を取ります。2ピリオド目、3ピリオド目は、カナダのそつのない攻撃を見せ連取すると、4ピリオド目は、序盤はカナダペースで進むものの、終盤で日本女子チームが盛り返してこのピリオドを制し、2対2のタイになり5ピリオド目に突入しました。カナダペースで進みますが、日本女子チームが終盤で逆転し、あと1点のところカナダにかわされ、このピリオドを落としカナダが勝利しました。この結果で予選2位以上が確定しました。勝負では負けたものの、チームワークでは日本が勝っていて、カナダ相手に自分たちの力を発揮し、互角に戦えたことが自信につながり、次の準決勝ラウンドに向け、いい雰囲気になってきました。

予選結果は、1位がカナダ、2位が日本、3位が地元フランスとなり、10月31日に準決勝ラウンド第1戦がこの3チームで行われることになりました。勝ったチームが決勝進出となります。

試合はこれまで2コートで行われてきましたが、予選ラウンド終了後は1コートとなり、試合前には国家斉唱が行われ、これまでとは違い厳かな雰囲気から試合が始まることとなります。

準決勝ラウンドともなると、地元フランスチームへの観客席からの声援が予選の時以上に会場に響いていて、アウェー感が漂っています。

カナダは、予選時の対戦では逆転で勝った今回の再戦ということで、戦い方を変えてきていました。予選時ではセンターからほとんどボールを移動させることなく攻めていましたが、準決勝ラウンド第1戦では日本女子チームに対しては、センターからのボール移動とパスでクローズドディフェンスを崩し、空いたスペースにヒットを打ってきていて、予選時よりもスピード感もあり、1ピリオドも取れずにストレート負けしました。これでカナダの決勝進出が決定しました。日本女子チームは、翌日の準決勝ラウンド第2戦に回ることとなります。負けはしたものの、守りの位置取りを変えることで対応でき、次につながる負けと選手は前向きに捉えていました。

11月1日の準決勝ラウンド第2戦は、第1戦で負けた日本、フランスと予選4~6位ブロックで勝ち上がったチェコとの対戦となりました。これは、予選第2試合目と同じ組み合わせとなり、予選では勝っていますが、着実に勝利し決勝進出を決めたいところです。

日本女子チームは、終始優勢に試合を進め、3ピリオド目にミスが出て日本女子チームが先に落ち、チェコに1ピリオドを取られたものの、レシーブから試合の流れをつくり、この試合を制し、決勝進出を決めました。

11月2日、いよいよ決勝戦を迎えました。決勝戦前のセレモニーでは、選手入場では光や花火の演出があり、選手、コーチそれぞれにエスコートキッズがいて一緒に手をつないで、紹介とともに一人一人が入場し、決勝戦を盛り上げてくれています。

日本女子チームの決勝の相手は、9連覇中の王者カナダ、準決勝ラウンド第3戦でフランス、ベルギーを破り初の決勝進出を果たした勢いのあるチェコとの対戦となりました。

日本女子チームは、前回東京大会のあと1点に泣いた悔しさを晴らすため、この決勝で勝つためにこの2年間頑張ってきました。ただ、競技方式の変更に伴い、カナダとは3回対戦することになったのですが、この決勝でしかやらない秘策をしたためて予選ラウンドと準決勝ラウンドを戦ってきて、この一戦にかけてきた選手の連帯感最高潮で心の準備も整っていました。

第1ピリオド、チェコが先に落ち、日本が11点、カナダが10点となり、秘策を繰り出しましたが痛恨の相打ち、次も、見逃せばアウトとなるボールを取りにいきアウトにして連続失点、その後ヒットを決められ、チャンスを生かせず1ピリオドを取られます。

第2ピリオドも1ピリオド目同様の展開となり、チェコが先に落ち、日本が11点、カナダが10点から2チームで再スタートです。カナダのミスがあり、日本が12点となり、このピリオドを取るかに思われましたが、レシーブミス、ヒットがアウトになってしまう連続失点で同点に。次は好レシーブを見せ、秘策を仕掛けますが、タイムオーバーとなり、ここでも惜しくもカナダに取られてしまいます。

第3ピリオド、これで後がなくなった日本ですが、先に日本が落ちてしまいます。後は、カナダとチェコの一騎打ちとなるので、カナダ優位と見ていましたが、最後にカナダにミスが出てチェコがこのピリオドを取ります。これで日本にも再びチャンスが出てきました。取り続ければ何とかなると。

第4ピリオドは、一進一退の攻防が続きます。チェコが10点に到達し、日本、カナダ9点となり、カナダのリスタートからの展開です。ルール上、どこかのチームが10点に達すると、どこのチームを攻めてもいいので、カナダは、日本を落とすというのは明らかでした。また、日本は、レシーブができればカナダを落とすという選択になります。

読みどおりカナダは日本を攻め、日本はレシーブで食らいつき、カナダを落としにいきます。秘策を繰り出すのですが、今度は、攻めるチームを指定するコールが聞こえていないとコールミスの反則を取られてしまいます。コールするプレーヤーとレフリーが接触したように見え、よろめいてコールしたのがレフリーに聞こえていなかった感じでした。レフリーに説明を求めますが、聞こえていないという結論に至り、日本チームが先に落ち、チェコがカナダを下さない限り、チャンスはありません。しかしながら、カナダが順当にこのピリオドを制し、カナダの10連覇となりました。チェコが1ピリオドを取っていたため、日本女子チームは、非常に悔しい銅メダルとなりました。

決勝では、レシーブができていて、カナダのパワーに屈したという感覚はありません。互角に戦えたと思います。レシーブできずに終わったという展開ではなく、自チームでボールを持っているが自滅で、勝負のポイントでの詰め甘さが勝敗を左右したと言えます。本当にあと1歩でした。勝負の世界は、結果が全てです。策士策に溺れる結果となり、銀メダルもさらわれ、2009年第5回カナダ大会以来の銅メダルに終わりましたことを、金メダルを期待し共に戦っていただきました皆さまにお詫び申し上げます。

試合終了後は、観客席から日本の健闘を称える拍手が全方向から鳴りやまず、この日本に対する称賛の拍手に、敗戦で落ち込んでいた気持ちが少し救われました。

日本女子チームは、心を1つにしてまとめ、点を取れば全員が喜び、ミスがあっても全員が声を出し励まし、多くの方々の声援を背に力の限り戦いました。とてもいいチームになったと感じます。チームワークではどこの国にも負けない世界一のチームだと思っています。

日本が世界で金メダルを取るには、今後の普及促進、競技人口の増大が不可欠で、そうでない限り今後の日本でのキンボールスポーツの発展はありません。これからも、キンボールスポーツに対しまして、引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 第10回キンボールスポーツワールドカップ2019 フランス大会レポート

第10回キンボールスポーツワールドカップ2019 日本男子チームヘッドコーチ 柴井健太

### 1. はじめに

皆さまからの多大なるご支援並びにご協力により、第10回キンボールスポーツワールドカップ2019 フランス大会に参加できましたことを心から御礼申し上げます。結果はご存知の方も多いかと思いますが男子チームは決勝戦に進出し、銅メダルを獲得することができました。男子チームヘッドコーチとして大会を振り返りご報告いたします。

### 2. 予選ラウンド

第1試合は今大会の開幕戦でもありました。開催国フランス、ベルギーとの対戦は非常に白熱した試合となりました。試合は幸先良く1ピリオドを先取したものの、逆転を許し、1位ベルギー、2位日本、3位フランスという結果となりました。第2試合は2大会連続銅メダルのチェコ、スイスとの対戦でした。後述する次のラウンドに良い条件に進むためにも何としても1位を取り、確実に勝ち点を積み上げたい試合でした。結果は3ピリオドをストレートで先取し、無事1位の勝ち点を稼ぐことができました。第3試合は前回王者カナダ、スペインとの対戦でした。このゲームで2位以内を取ると、次のラウンドにより良い条件で進める上位グループの予選順位3位以内が確定します。結果は1位カナダ、2位日本、3位スペインとなり予選3試合が終了しました。

### 3. 準決勝ラウンド

日本男子チームの予選で獲得した総勝ち点はグループ3位となり、次のラウンドに進むことができました。準決勝ラウンドは各試合で1位となったチームが決勝進出となります。準決勝ラウンド第1戦の試合はカナダ（予選1位）、ベルギー（予選2位）と対戦しカナダが1位となり決勝進出を決めました。ベルギーと日本は敗者復活戦の準決勝ラウンド第2戦で再度決勝進出を目指すことになりました。敗者復活戦の相手はベルギー、フランス（別の試合を勝ちこの復活戦に進出）という開幕戦と同じカードになりました。大接戦の末、フランスが決勝進出を決めました。キンボールスポーツは3チームで対戦します。最後の決勝進出をかけてベルギー、チェコ（別の試合を勝ちこの復活戦に進出）と最後の敗者復活戦の準決勝ラウンド第3戦を戦うことになりました。後のない状況でしたが、この試合に勝ち決勝進出を勝ち取ることができました。

### 4. 決勝

予選ラウンド、準決勝ラウンドと非常に苦戦しましたが、目標としてきた金メダルに挑戦できる舞台にたどり着きました。前述ラウンドの結果により決勝戦の相手は王者カナダ、開催国フランスです。結果は1位カナダ、2位フランス、3位日本となり金メダルには届きませんでした。連覇を果たしたカナダは安定感が抜群でした。フランスも大観衆の声援を受け非常にアグレッシブに戦っていました。そして私たち日本も精一杯チャレンジしました。悔しい結果となりました。日本男子チームは予選ラウンド3試合、準決勝ラウンド3試合、決勝戦の計7試合を戦いました。今大会の参加チームで最も多くの試合を経験したチームの一つとなりました。

### 5. さいごに

皆さまからの声援に背中を何度も押しいただきました。目標としていた金メダルには届きませんでした。今回のチャレンジは終わってしまいましたが、私たちにとってこの貴重な経験をどう活かすか、どのように行動するかということが今後求められます。これからこういった姿勢で周囲と関わっていくのか、自身の人生の糧にしていけるのか、キンボールスポーツを楽しむのか、どうキンボールスポーツを盛り上げていくのか、これからの選手と自分自身に期待しています。

地域の代表として、日本の代表として世界の舞台に立つ喜びと誇りを胸に選手たちと戦いました。皆さまからのご支援並びにご協力がなければこの舞台に立つことすらできませんでした。今後もキンボールスポーツを楽しんでいただけるようチャレンジしていきたいと思っております。今後とも日本のキンボールスポーツをよろしくお願いたします。



第10回キンボールスポーツワールドカップ2019 フランス大会まとめ

一般社団法人日本キンボールスポーツ連盟  
 日本代表委員会委員長、日本代表ゼネラルマネジャー  
 黒川道子

ワールドカップの際は沢山の応援をありがとうございました。キンボールスポーツ愛好者の皆様はもちろん、たくさんのサポーターの皆様の応援をいただき本当に嬉しく思いました。そのような皆様の応援が私たちのパワーの原動力となりました。選手、コーチ、スタッフ丸となり頑張りましたが、皆さまの心を踊らせるようなプレーはできていたでしょうか？ 感動していただけるようなプレーはできていたでしょうか？ キンボールスポーツの魅力は共遊と言う言葉で表すことができます！ 今回のワールドカップを皆様と共遊出来たことを嬉しく、また誇りに思います。

これからも全ての皆様との共遊を目指し、邁進して参りたいと思います。  
 よろしくお願ひ申し上げます。



頑張れ！日本代表旗





試合前円陣



フランスからの心強い応援団



インターナショナルオープン プロの部の優勝 BudoA(国際武道大学A)



ピリオド間の応援



女子部門 銅メダル日本



応援うちわ大活躍



男子部門 銅メダル日本



第10回キンボールスポーツワールドカップ2019 日本代表